

☆放課後子ども教室☆

新緑のまぶしい季節となりました。子どもたちと一緒に学校林周辺を歩くと、エンレイソウやマイヅルソウ、チョウセンゴミシの若芽が伸びています。学校近くの農家さんのところにちょっとお散歩に行ってみると、田植えを待つ稲の苗がハウスいっぱい広がっていました。小さな苗を前に「可愛いね」「これがお米になるんだね」とつぶやく子どもたち。田んぼに水が入っていく様子も、米どころならではの春の風景ですね。

☆植物の芽吹きはこの時期は毎年、春の自然探検に出かけています。笹が生い茂り、ハチやダニなどの虫やウルシなどが出てくると、自由に森の中を探検することがなかなか難しくなります。その前にこの季節にしか出会えない自然の面白いもの・美味しいものを探しに行きました。子どもたちは外に出ると色々なものを発見してきます。芽がひょろっと生えたドングリや、食痕がまるでエビフライのようになった松ぼっくり。大小さまざまな木の枝に、色とりどりの花を見つけては駆け出していきます。今回の自然探検では、山菜として食べられる植物を自然の中から少しおすそわけしてもらい、天ぷらにいただきました。エゾエンゴサクやタンポポ、行者にんにく、ヨモギ、オオウバユリの根などを食べてみることに。食材をきれいに洗い、天ぷらを揚げる作業もちろん子どもたちが行います。初めて食べる山菜に最初は渋い顔をしていた子もいましたが、食べてみると「美味しい！」と次々手を伸ばしていたのがとても印象的でした。山菜図鑑を見て「これは食べられるかな？」と色々な植物に興味を持つ子もいました。こうした活動から子どもたちの好奇心の芽を育てていければと思います。



☆5月の大型連休が明け、いよいよ新1年生も放課後教室デビューとなりました。中央小、上厚真小それぞれに新1年生が元気に参加してくれています。最初はドキドキ緊張している様子もありましたが、2～3年生が遊んでいる様子を見たり、友だちや兄弟姉妹、スタッフと一緒に遊んだりしているうちに少しずつリラックスしていったようです。5月は特に1年生に意識が集中してしまいがちですが、意外とこの時期は2～3年生へのフォローも大切にしています。1年生ばかりが特別と寂しい気持ちにならないよう、何気ないことで声をかけたり話を聞いたり、一緒に遊んだりすることを心がけています。1年生にとってはもちろん、2～3年生にとっても新しい仲間を迎えて、集団を形成する助走期間なのだと思います。高学年が低学年の面倒をみながら、一緒に遊びの場をつくらせていける関係性を築けるよう、働きかけていきたいと考えています。



☆放課後子ども教室の活動に、厚真高校ボランティア部のみなさんがお手伝いに来てくれました。子どもたちと一緒にオニごっこをして遊んでくれたり、モノ作りのサポートなどをしてくれています。こうした異年齢交流は、小学生だけではなく高校生にとっても良い刺激になると思います。また、今年度も読み聞かせサークルのわたぼうしさん、あゆみ会のみなさんにも継続して関わっていただいています。今後も町内外のボランティアさんと一緒に活動できる場を作っていきたいと思っています。

